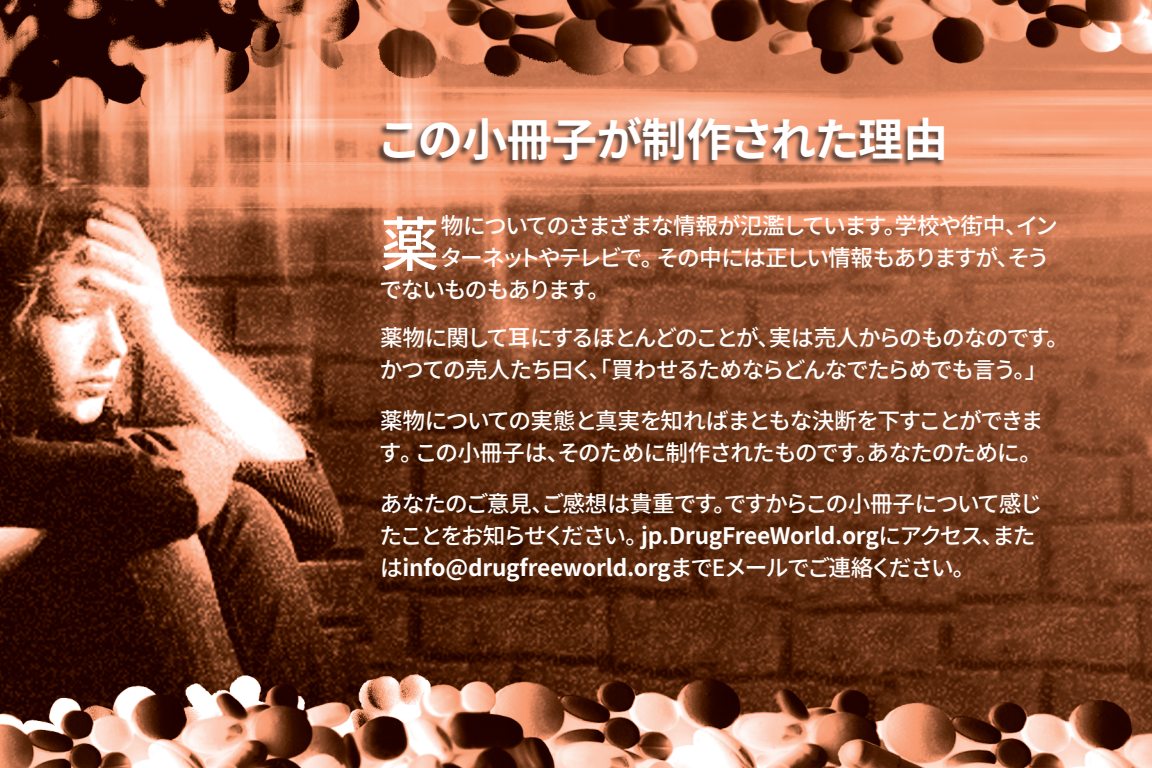

真実を知ってください
処方薬乱用
ブラックビューティ
イエロー
レッズ
ダウナー
デミーズ
キャンディ
jp.drugfreeworld.org



この小冊子が制作された理由

薬物についてのさまざまな情報が氾濫しています。学校や街中、インターネットやテレビで。その中には正しい情報もありますが、そうでないものもあります。

薬物に関して耳にするほとんどのことが、実は売人からのものなのです。かつての売人たち曰く、「買わせるためならどんなでたらめでも言う。」

薬物についての実態と真実を知ればまともな決断を下すことができます。この小冊子は、そのために制作されたものです。あなたのために。

あなたのご意見、ご感想は貴重です。ですからこの小冊子について感じたことをお知らせください。**jp.DrugFreeWorld.org**にアクセス、または**info@drugfreeworld.org**までEメールでご連絡ください。

処方薬乱用
深刻な問題

快楽や陶酔感を得る目的で処方薬を乱用するという行為が10代の若者の間で広まり、深刻な問題となっています。米国での全国調査によると、10代の若者が処方薬の乱用に走る可能性は、違法なストリート・ドラッグに手を出す可能性よりも高いとのことです。

多くの10代の若者は、医師が処方するため、処方薬は安全だと信じています。しかし、ハイになるためや自己治療のために、医学的な理由なしに薬を服用することは、違法なストリート・ドラッグを使用するのと同じくらい危険で依存性があります。

医学的な監督なしに処方薬を服用することには、重大な健康の危険性があります。このため、これらの薬は医師の管理の下でのみ服用し、依存症やその他の問題を防ぐために注意深く監視する必要があります。

あなたのために処方されていない薬を服用するのは非常に危険です。人々は身体の化学的性質や既存の健康状態の違いにより、薬に対して異なる反応を示すことがあります。ある人にとって安全な薬が、他の人にとっては有害であったり、致命的でさえあったりする可能性があります。

処方薬は、処方された人が、医師の指示通りの用量で服用する場合に最も安全です。



処方薬
あなたが知らないこと

乱用や依存の可能性があるため、多くの処方薬は、アメリカ合衆国麻薬取締局（DEA）によって、アヘン、ヘロイン、コカインと同じカテゴリーに分類されています。これには、リタリンやデキセドリンのような中枢神経刺激剤や、オキシコンチン、デメロール、ロキシコドンのような鎮痛剤が含まれます。

違法なストリート・ドラッグの中には、かつて医師や精神科医によって使用されたり処方されたりしていたものもありますが、その後、有害な影響があるために禁止されました。例としては、ヘロイン、コカイン、LSD、メタンフェタミンなどがあります。

処方薬の乱用は、違法薬物の使用よりもさらに危険な場合があります。オキシコンチン、フェンタニル、その他のオピオイドなどの合成薬物の中には、非常に強力なものがあり、過剰摂取のリスクを高めます。鎮痛剤の過剰摂取による死亡者数は、世紀の変わり目と比べて5倍に増加しています。

多くの人は、許可なく医薬品を販売したり配布したりすることは違法であり、罰金や懲役刑を含む厳しい罰則が科されることに気付いていません。薬物の取引が死や重症をもたらした場合、売人は終身刑に処せられる可能性があります。

乱用される処方薬の種類

娯楽目的で服用される処方薬は、以下の主なカテゴリーに分類されます。

1. **鎮静剤・安定剤：**これらの薬は、中枢神経系*抑制剤としても知られており、脳の機能を遅らせます。これには、鎮静剤（落ち着かせたり、眠気を誘ったりするために使用される）や精神安定剤（緊張や不安を和らげるために使用される）が含まれます。
2. **オピオイドおよびモルヒネ誘導体†：**一般的に鎮痛剤として知られているこれらの薬は、アヘンまたは類似の物質を含んでおり、痛みを和らげるために使用されます。
3. **中枢神経刺激剤：**これらの薬はエネルギーと警戒心を高めますが、血圧、心拍数、呼吸の速度も上昇させます。
4. **抗うつ薬：**気分を変える精神薬。



* 中枢神経系：脳や脊髄を含む体の部分
† 誘導体：関連する物質から生成された化学物質

鎮静剤・安定剤

時にダウナーと呼ばれる鎮静剤・安定剤は、多色の錠剤やカプセル、または液体の形で存在します。ジプレキサ、セロクエル、ハルドールのような薬は、主なトランキライザーまたは抗精神病薬として知られており、精神病の症状を軽減するために使われます。ザナックス、クロノピン、ハルシオン、リブリウムのような薬は、ベンゾス（ベンゾジアゼピン*系の略）と呼ばれ、不安に対して使われます。アミタール、ネンブタール、セコナールのようなバルビツール酸系薬物は、鎮静剤や睡眠薬として作用します。よく知られている商標名や通称には、次のようなものがあります。

商標名	通称：	商標名	通称：
• アチバン	• キャンディー	• アミタール	• バーブス
• ハルシオン	• ダウナーズ	• ネンブタール	• フェニーズ
• クロノピン	• 睡眠薬	• フェノバルビタール	• レッド・バード
• リブリウム	• トランクス	• セコナール	• レッズ
• ベイリウム			• トーイ
• ザナックス			• イエロー・ジャケット
			• イエロー

* ベンゾジアゼピン：筋肉をリラックスさせ、精神的な興奮を鎮める作用を持つ精神安定剤

鎮静剤・安定剤による短期的な影響

鎮静剤・安定剤による短期的な影響には、以下のようなものがあります。

- 脳機能の低下
- 脈拍と呼吸の低下
- 血圧の低下
- 集中力の低下
- 混乱
- 倦怠感*
- めまい
- ろれつが回らなくなる
- 熱
- 脱力感
- 視覚の異常
- 瞳孔拡大
- 方向感覚の喪失、調整機能の失調
- 抑うつ
- 排尿困難
- 依存性

鎮静剤・安定剤は記憶力、判断力、協調性に影響を与え、イライラ、偏執症†、自殺願望を引き起こす可能性があります。一部の使用者は、動揺したり攻撃的になったりするかもしれません。

鎮静剤（落ち着かせたりリラックスさせたりするために使われる薬）を、精神安定剤やアルコールのような他の抑制剤と組み合わせると、薬の影響は2倍、3倍になります。これは呼吸と心拍を著しく低下させ、死に至る可能性があります。

* 倦怠感：身体的・心理的な疲労感やだるさ
† 偏執症：証拠や正当な理由もなく、他人に対する極度で不合理な不信感や恐れ

鎮静剤・安定剤による長期的な影響

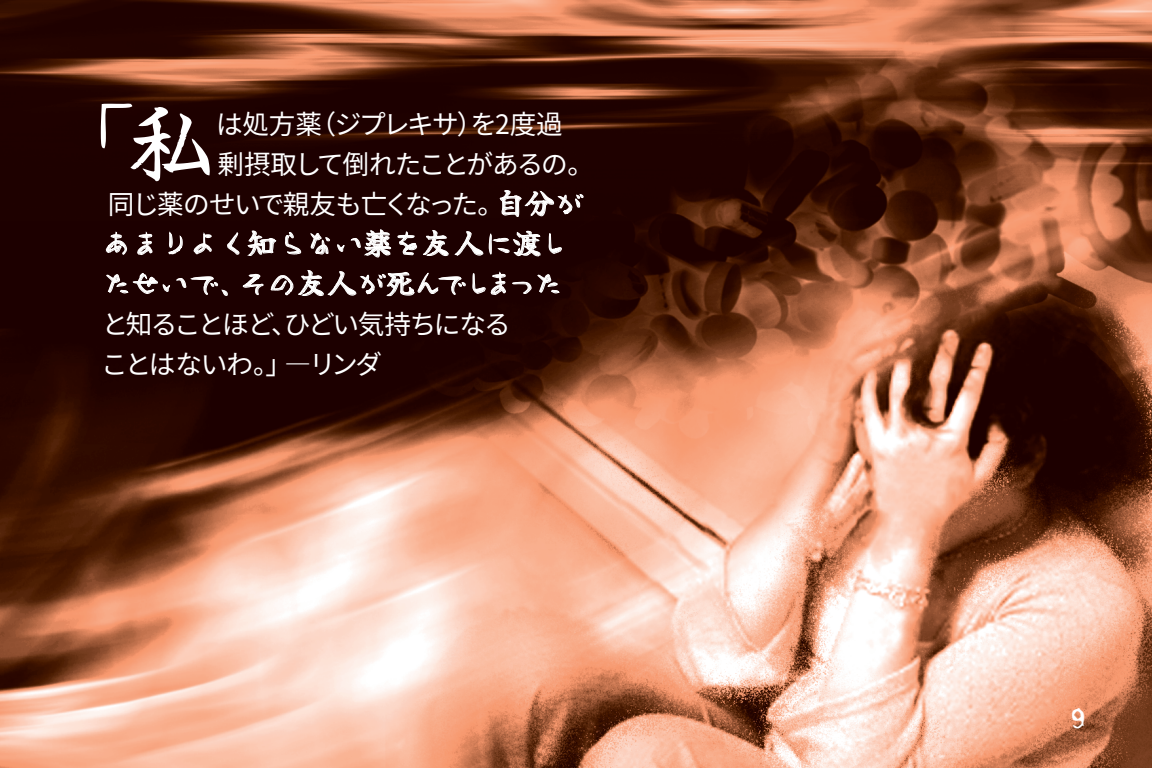
鎮静剤・安定剤に対する耐性はすぐにできてしまうため、同じ効果を得るためにより高い用量が必要になります。これにより、過剰摂取、昏睡、死のリスクが高まります。

鎮静剤・安定剤を長期間使用すると、慢性的な疲労、呼吸の問題、うつ、性的な問題、睡眠の問題を引き起こす可能性があります。薬物への依存が増し、使用者は薬物を取ることができないと、薬物への渇望や不安、パニックなどに襲われるのが普通です。

鎮静剤・安定剤の離脱は命に関わる可能性があり、不眠、衰弱、吐き気、興奮、体温の上昇、せん妄、幻覚、けいれんを伴うことがあります。

一部の抗精神病薬は、高血糖、糖尿病、体重増加のリスクを高める可能性があります（体重が45キロも増えたという報告もあります）。

国立衛生研究所の研究によると、一部の抗精神病薬の乱用は、死に至る可能性のある深刻な心臓の問題に関連していることが分かっています。



「私は処方薬（ジプレキサ）を2度過剰摂取して倒れたことがあるの。同じ薬のせいで親友も亡くなった。**自分があまりよく知らない薬を友人に渡したせいで、その友人が死んでしまった**と知ることほど、ひどい気持ちになることはないわ。」―リンダ

ロヒプノール

ロヒプノールは、ベイリウムの10倍も強力な催眠鎮静剤です。白かオリーブ色の錠剤で、通常は気泡シートに包装したものが販売されています。乱用者はこの錠剤を砕き、粉末を鼻から吸入する、マリファナに振りかけて喫煙する、飲料に溶かす、注射するといった方法で使用します。



商標名

- フルニパム
- ヒプノドーム
- ロヒプノール

通称：

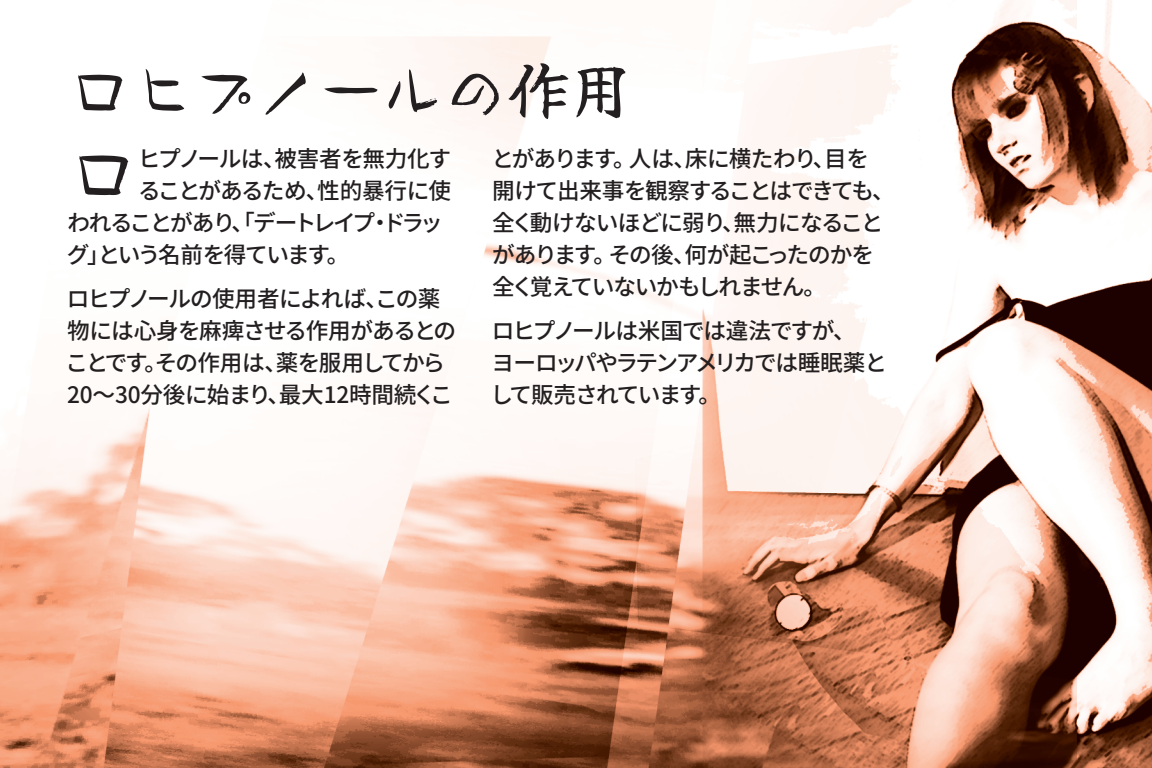
- フォーゲット・ミー・ピル
- メキシカン・ベイリウム
- R2
- ロシュ
- ルーフィーズ
- ロープ
- ロフィーズ

ロヒプノールの作用

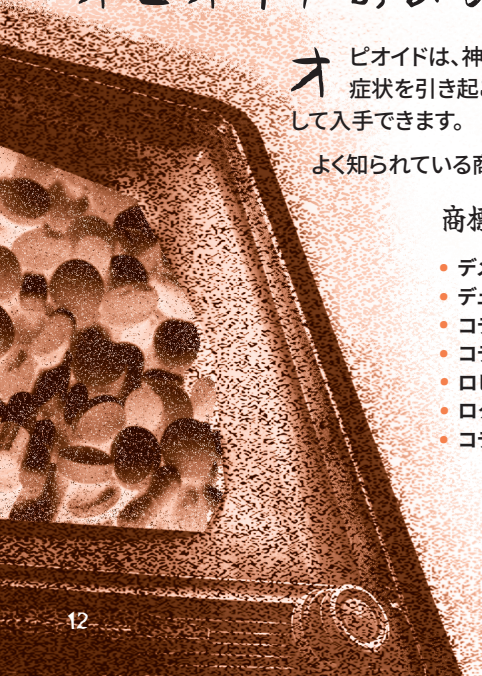
ロヒプノールは、被害者を無力化することがあるため、性的暴行に使われることがあり、「デートレイプ・ドラッグ」という名前を得ています。

ロヒプノールの使用者によれば、この薬物には心身を麻痺させる作用があるとのことです。その作用は、薬を服用してから20～30分後に始まり、最大12時間続くことがあります。人は、床に横たわり、目を開けて出来事を観察することはできても、全く動けないほどに弱り、無力になることがあります。その後、何が起こったのかを全く覚えていないかもしれません。

ロヒプノールは米国では違法ですが、ヨーロッパやラテンアメリカでは睡眠薬として販売されています。



オピオイドおよびモルヒネ誘導体



オピオイドは、神経系に作用して痛みを和らげる薬ですが、身体的依存や禁断症状を引き起こす可能性があります。錠剤、カプセル、液体、または貼付薬として入手できます。

よく知られている商標名や通称には、次のようなものがあります。

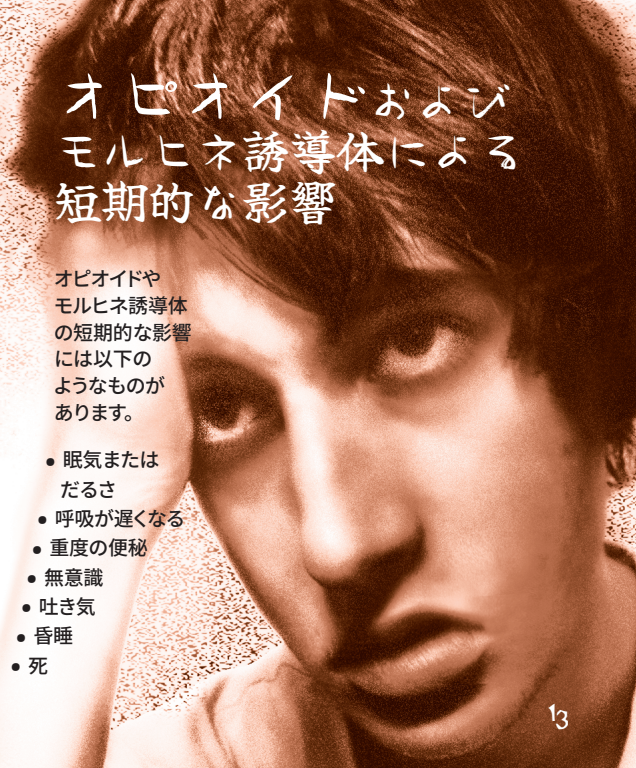
商標名

- デメロール
- デュラモーフ
- コデインを含むエンペリン
- コデインを含むフィオリオナル
- ロビタシンAC
- ロクサノール
- コデインを含むタイレノール

通称：

- キャプテン・コーディ
- コーディ
- デミー
- ドアーズ&フォーズ
- ロード
- M
- ミス・エマ
- モンキー
- ペイン・キラー
- パンケーキ&シロップ
- スクール・ボーイ
- ホワイト・スタッフ

オピオイドおよびモルヒネ誘導体による短期的な影響



オピオイドやモルヒネ誘導体の短期的な影響には以下のようなものがあります。

- 眠気またはだるさ
- 呼吸が遅くなる
- 重度の便秘
- 無意識
- 吐き気
- 昏睡
- 死

商標名

- アークティック
- ジラウジッド
- デュラジェシック
- ハイシングラ
- ローセット
- ロータブ
- ノルコ
- オキシコンチン
- ペルコセット
- ペルコダン
- ロキシボンド
- サブリメイズ
- タイロックス
- エクスタンプザ
- ゾハイドロ

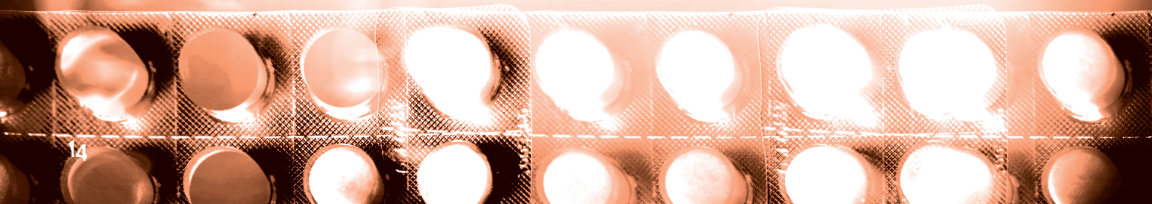
通称：

- アパッチ
- チャイナ・ガール
- チャイナ・ホワイト
- ダンス・フィーバー
- ディリーズ
- フレンド
- グッドフェラ
- ヒルビリー・ヘロイン
- ジャックポット
- ジュース
- マーダー8
- オキシ80
- オキシセット
- パークス
- パークス
- タンゴとキャッシュ
- TNT

オピオイドおよびモルヒネ誘導体
長期的な影響

オピオイドを長期間使用したり乱用したりすると、身体的な依存や中毒を招く恐れがあります。禁断症状には、情動不安、筋肉や関節の激しい痛み、不眠、下痢、嘔吐、鳥肌を伴う強烈な悪寒などがあります。使用者は同じハイを得るためにより多くの量を必要とするかもしれず、過剰摂取のリスクが高まります。

鎮痛剤の乱用についてのより詳しい情報は、この小冊子シリーズの「真実を知ってください：鎮痛剤乱用」をごらんください。





「悪い友達がいて、その子からオキシコンチンを教えられた。私は40mgの錠剤から始め、数カ月後には60mgに増やした。**もうその頃には完全にハマっちゃってて、早くハイになりたくて薬を噛むようになってた。そうしないと吐き気がしてくるの。**起き抜けに1錠やらないと、気持ち悪くて吐きそうになる。昼前にはもうひとつが必要だった。午後と夜にまた取って 自分が依存症になってるのはわかってた。薬をやらないとまともに動けないんだからね。薬がない時は最悪だった。体が辛いだけじゃないの。薬をやらないと人付き合いができないし、生活していくこともできない。そのうち80mg錠までエスカレートしちゃって、人生もうメチャメチャよ。**薬をキープするのに必死だったから、知ってる人全員からお金を盗んだりするようになった。**」―シャーリーン

中枢神経刺激剤

中枢神経刺激剤は、エネルギーや鋭敏さを一時的に増加させる薬品です。俗に「アッパー」とも呼ばれます。一般的な例としては、コカインやアンフェタミンがあります。

処方される中枢神経刺激剤は錠剤やカプセルで入手可能で、口から摂取するほか、液体にして注射したり、砕いて吸引したりすることもあります。

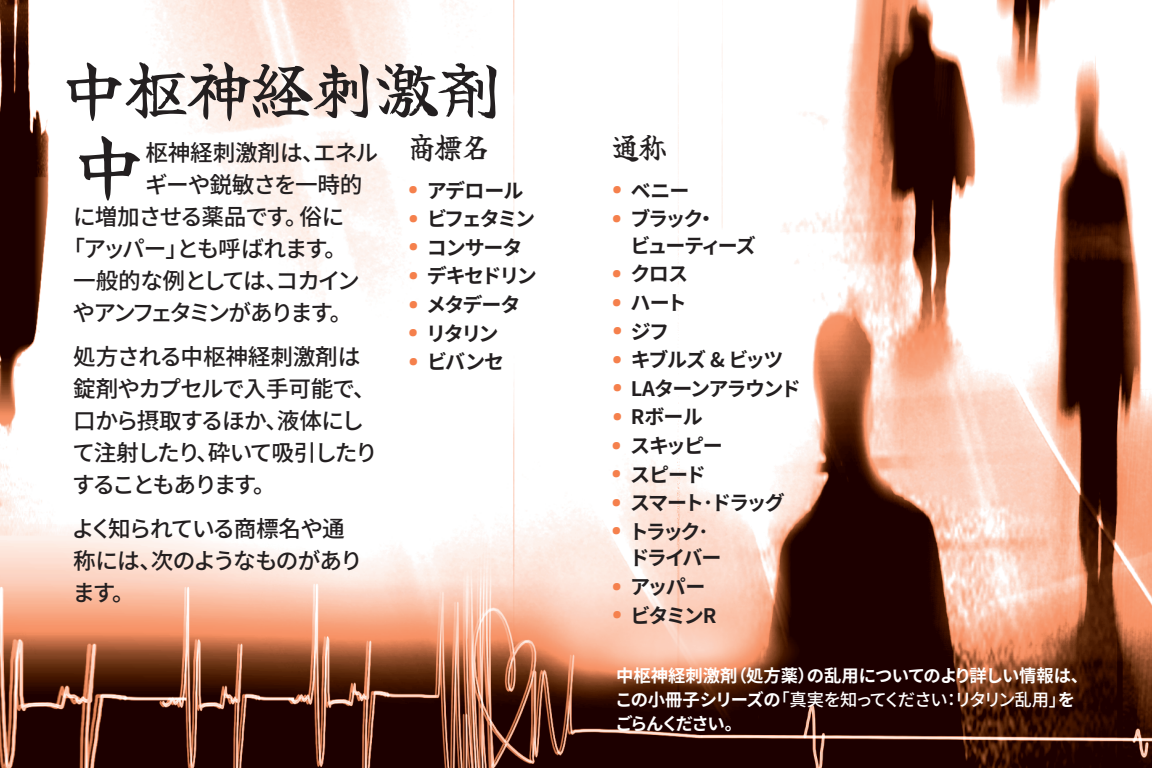
よく知られている商標名や通称には、次のようなものがあります。

商標名

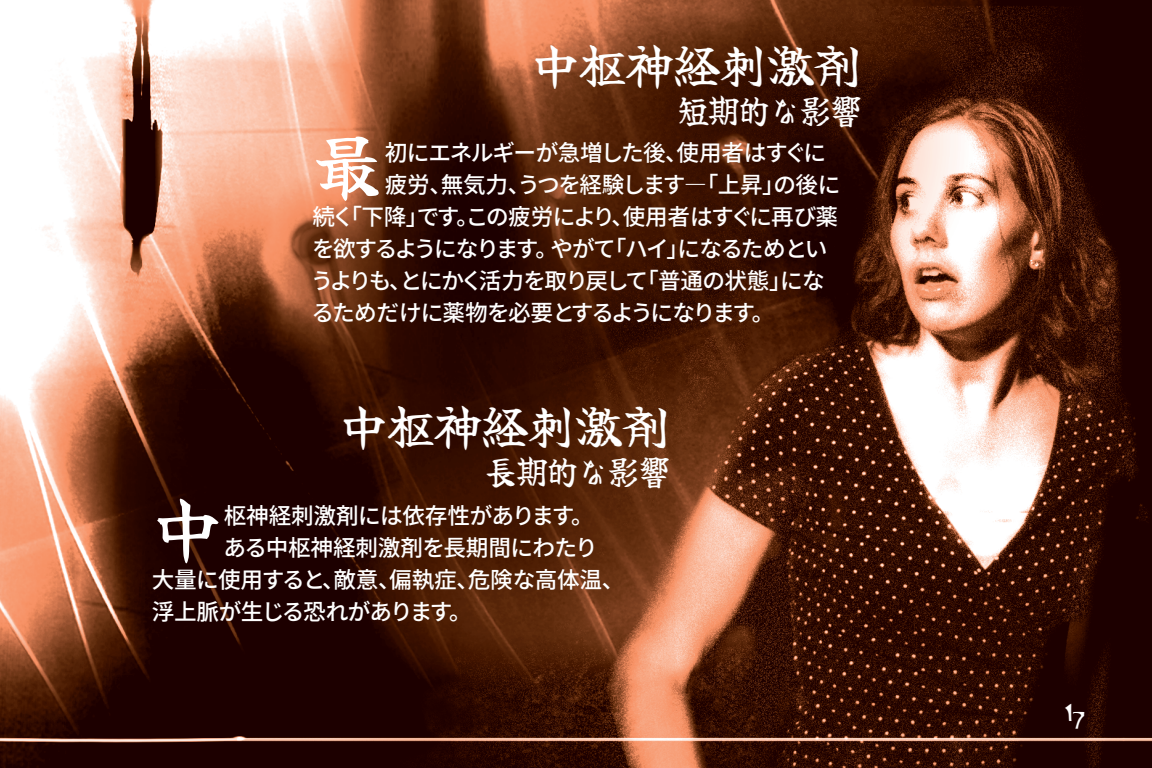
- アデロール
- ビフェタミン
- コンサータ
- デキセドリン
- メタデータ
- リタリン
- ビバンセ

通称

- ベニー
- ブラック・ビューティーズ
- クロス
- ハート
- ジフ
- キブルズ & ビッツ
- LAターンアラウンド
- Rボール
- スキッピー
- スピード
- スマート・ドラッグ
- トラック・ドライバー
- アッパー
- ビタミンR



中枢神経刺激剤（処方薬）の乱用についてのより詳しい情報は、この小冊子シリーズの「真実を知ってください：リタリン乱用」をごらんください。



中枢神経刺激剤
短期的な影響

最初にエネルギーが急増した後、使用者はすぐに疲労、無気力、うつを経験します—「上昇」の後に続く「下降」です。この疲労により、使用者はすぐに再び薬を欲するようになります。やがて「ハイ」になるためというよりも、とにかく活力を取り戻して「普通の状態」になるためだけに薬物を必要とするようになります。

中枢神経刺激剤
長期的な影響

中枢神経刺激剤には依存性があります。ある中枢神経刺激剤を長期間にわたり大量に使用すると、敵意、偏執症、危険な高体温、浮上脈が生じる恐れがあります。

抗うつ薬

抗うつ薬には、プロザック、パキシル、セレクサ、シンバルタ、ゾロフト、エフェクサー、オーベリティ、レメロンがあります。これらの薬は、色とりどりのカプセルや錠剤の形で提供されます。

研究によると、この種の薬物には以下のような副作用があることがわかっています。

- 不眠症
- いらいら
- 緊張、不安
- 暴力衝動、暴力行為
- 動揺
- 自殺衝動、自殺
- 震え
- 敵意
- 発汗
- 不整脈
- 攻撃性
- 犯罪的な行動
- 混乱、一貫性のない思考
- 被害妄想
- 幻覚
- 精神病
- アカシジア*

これらの薬を服用している若者は、大人の2倍の確率で攻撃的な行動を取ります。調査によると、これらの薬を服用している若い成人の間で、暴力犯罪の発生率が高いことが示されています。抗うつ薬は、自殺のリスクを大幅に高める可能性があります。

これらの薬を服用している人々の極端で非合理的な行動の例はたくさんあります。

ある12歳の少年は、クラスメートを殺し、その後自分が撃たれるという暴力的な悪夢を見るようになりました。目覚めた後も夢が「非常に現実的に」感じられ、薬が停止されるまで彼は強い自殺衝動を抱いていました。

* アカシジア：強烈な内側の落ち着きのなさのために、座ること、あるいはじっと座っていることを困難にする運動障害

「この薬をもっと取れと、脳が怒鳴りつけているような感じです。薬を飲まないと、耐えられない気持ちになります。このエフェクサーの離脱症状を乗り越えるために、もっと助けが必要です。私はとても落ち込んでいて、腕を切り始めました。なぜなのか、自分でもよく分かりません。また、私は数時間おきに幻覚を見て、いろいろなものが見えます。今日も、壁を血が滴り落ちているのを見ました。」—リタ

ある男性は、銃を奪って自殺するために、警察官を車ではねました。また別の男性は、2人の幼い子どもと自分自身を浴槽で溺れさせ、さらに別の男性は、特に理由もなく親しい友人を殴りました。こうした事例のうち、薬の服用以前に暴力行為の経歴があった人はひとりもいません。

抗うつ剤の禁断症状は次のようなものです。自殺衝動、攻撃性、不安、抑うつ、泣き続ける、不眠、目まい、嘔吐、頭痛、震え、脳に電気ショックを受けたような感覚などです。

ケタミン

ケタミンは解離性麻酔薬*に分類されます。つまり、周囲や自分自身から人を切り離すということです。長い間、獣医学で使用されてきましたが、今では人間に対して使用されることが多くなっています。それは注射したり、飲み物に混ぜて摂取したり、鼻から吸ったり、ジョイントやタバコに混ぜたりすることができます。ケタミンは1999年に合衆国で規制薬物となりました。つまり、免許を持った医師や獣医によって配布されない限り、違法です。

短期的・長期的な影響としては、心拍数の増加や血圧の上昇、吐き気、嘔吐、麻痺、抑うつ、記憶喪失、幻覚などがあるほか、呼吸器の障害で死に至る危険性もあります。

ケタミンを服用していると、この薬物に対する渇望が起こる場合があります。大量に服用するといわゆるK-ホール、「体外離脱」や「臨死体験」と呼ばれる状態を経験することがあります。

服用した人は夢を見ているような状態になり、身動きが取れなくなるため、ケタミンはまた別の「レイプ・ドラッグ」です。

商標名

- ケタラー
- ケタラーSV
- ケタネスト
- ケタネストS
- ケタセット

通称：

- キャット・ベイリウム
- グリーン
- ジェット
- K
- スペシャルK
- スーパーアシッド
- スーパーC

* 解離性麻酔薬：視覚や聴覚を歪め、環境や自分自身からの離脱感を生じさせる薬物

市販薬の乱用

デキストロメトルファン（DXM）という薬を含む市販の風邪薬や咳止め薬も、よく乱用されています。DXMはシロップ、ジェル、錠剤の形で販売されています。オンラインで販売されている粉末状のDXMは、効力が不確かであるため、非常に危険です。DXMは100種類以上の咳止め薬や風邪薬に含まれており、最も乱用されているのは、コリシディン、デルシム、ロビタシンです。

商標名

- コムトレックス
- コリシディン
- デルシム
- ディメタップ
- ミューシネックスDM
- ロビタシン
- トリアミニック
- ヴィックス・フォーミュラ44

通称

- CCC
- DXM
- 貧乏人のマリファナ
- ロボ
- スキットルズ
- トリプルC



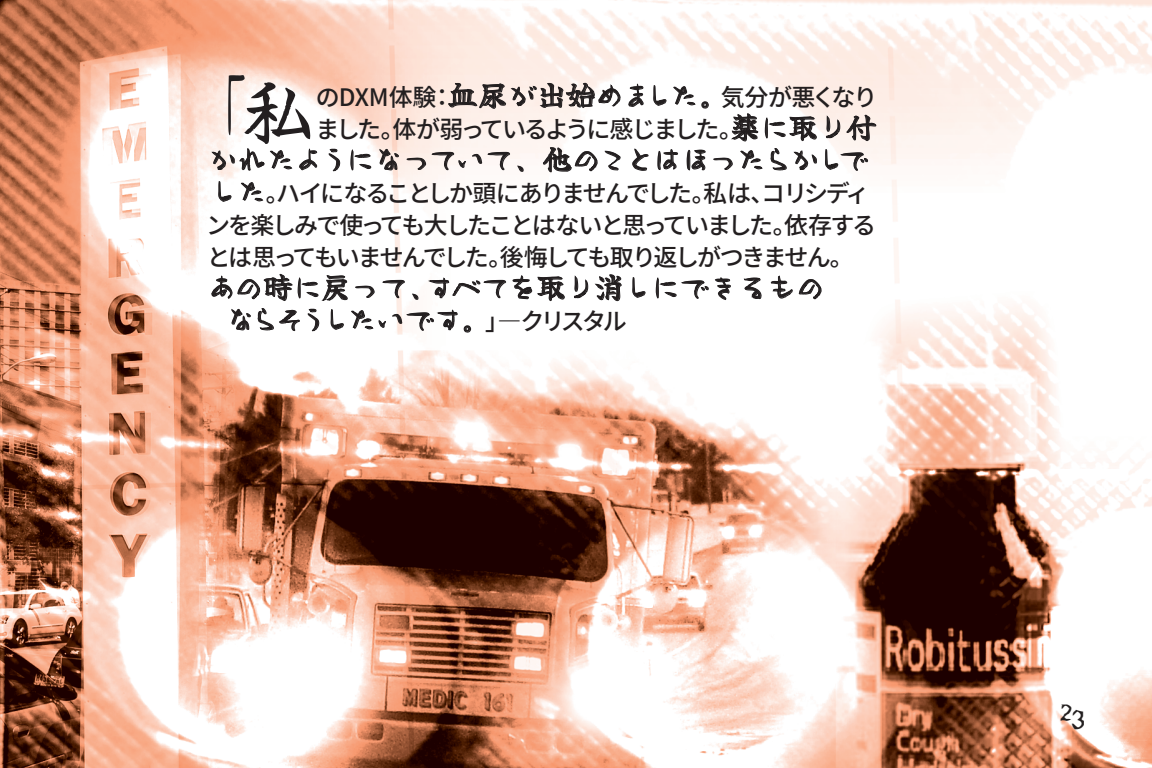
咳止めシロップ（DXM）の影響

- 幻覚
- 過剰な興奮
- 不眠症
- 倦怠感
- (長期間使用した場合)
  身体的な依存
- 偏執症
- 目まい
- ろれつが回らなくなる
- 妄想
- 発汗
- 高血圧
- 肝障害、脳障害

他の薬物と混ぜても、単独で使用しても、DXMは脳と神経系の働きを抑制し、呼吸や心臓の機能に支障をきたす可能性があります。大量に摂取すると、意識を失ったり、発作を起こしたり、脳に損傷を与えたり、死に至ることもあります。DXMは、特にアルコールと組み合わせると危険です。

EMERGENCY

「私のDXM体験：血尿が出始めました。気分が悪くなりました。体が弱っているように感じました。薬に取り付かれたようになっていて、他のことはほったらかしでした。ハイになることしか頭にありませんでした。私は、コリシディンを楽しみで使っても大したことはないと思っていました。依存するとは思ってもいませんでした。後悔しても取り返しがつきません。あの時に戻って、すべてを取り消しにできるものならそうしたいです。」—クリスタル



世界の処方薬の傾向

米国では毎日、1,800人の若者が処方鎮痛薬の乱用を始めています。

合計で570,000人の10代の若者が処方鎮痛薬を乱用したことを認めており、そのうちのほぼ半数がアデロール、コンサータ、リタリンのような処方中枢神経刺激剤を服用しています。

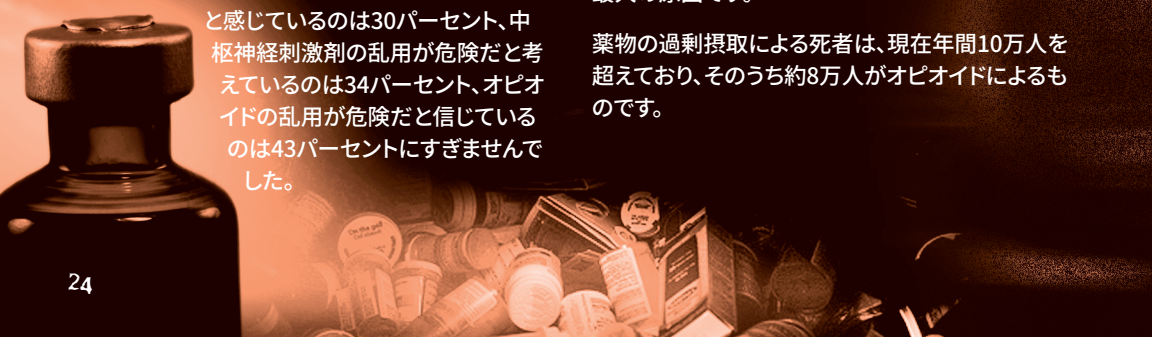
10代の若者に処方薬を試すことの危険性について尋ねたところ、鎮静剤の乱用が危険だと感じているのは30パーセント、中枢神経刺激剤の乱用が危険だと考えているのは34パーセント、オピオイドの乱用が危険だと信じているのは43パーセントにすぎませんでした。

処方薬の乱用は世界的な問題であり、特にヨーロッパ、南アフリカ、南アジアで顕著ですが、最も一般的なのは米国です。

米国だけでも、1,440万人以上が処方薬を乱用しており、これはコカイン、幻覚剤、ヘロインの乱用者を合わせた数とほぼ同じです。

処方オピオイド系鎮痛剤は、過剰摂取による死の最大の原因です。

薬物の過剰摂取による死者は、現在年間10万人を超えており、そのうち約8万人がオピオイドによるものです。



処方薬は、アルコールとマリファナ
に次いで、10代の若者が乱用する
物質の第3位であり続けています。



- 4人に1人の10代の若者が、人生のどこかで処方薬を乱用したことがあり、これは過去12年間で33パーセント増加しています。
- 10代の若者の約3人に1人は、処方薬は違法なストリート・ドラッグよりもはるかに安全だと考えています。約42パーセントは自宅の薬棚から薬を手に入れ、49パーセントは友人から手に入れると答えています。
- 調査によると、処方薬を乱用する10代の若者は、マリファナを使用する可能性が2倍、コカインやエクスタシー、ヘロインといった違法なストリート・ドラッグを使用する可能性が5倍高いことが分かっています。



「私は、定期的にザナックスをより多く使用していることに気付きました。それをやめるために、仕事を休みました。自分が依存しているという知識がないまま、私は突然やめました。4日間、昼も夜も、私は寝たきりでした。眠ることも食べることもできませんでした。吐きました。幻覚を見ました。ザナックスをやめて3日目くらいに、体の動きがぎこちなくなり、バランスを崩して、物にぶつかるようになりました。4日目くらいに、体がピクピクするようになって、本当に心配になりました。」
—パトリシア

真実を知ってください：薬物

薬物は基本的に毒です。その作用は、摂取する量によって決まります。

少し摂取すると、活動をより活発にする中枢神経刺激剤として作用します。多めに摂取すると、活動を抑制する鎮静剤として作用します。さらに多量に摂取すると毒となり命を奪います。

これはどの薬物にも当てはまります。こうした作用を引き起こすのに必要な量が違うだけです。

それだけではなく、多くの薬物には人のマインドにも影響を及ぼす弊害があります。薬物を取っている人が自分の周囲で起こっていることを知覚しても、それは歪んだものになってしまう可能性があります。その結果、その人の行動は奇妙だったり、不合理であったりするかもしれません。暴力的になることもあるでしょう。

薬物は、全ての感覚を遮断します。望ましい感覚も望ましくない感覚もです。そのため、短期的には痛みを和らげるために役に立ちますが、同時に人の能力や機敏さを消し去り、思考を不明瞭にします。

医薬品は、身体の働きを良くしようとして、何かを速めたり、遅くしたり、身体の働きを変えることを意図した薬物です。時には必要ですが、薬物であることに変わりはありません。中枢神経刺激剤や鎮静剤といった薬物を取り過ぎれば命を落とすこともあります。したがって、医薬品は規定通りに使用されない場合、違法薬物と同様に危険なものになり得ます。


本当の解決策は、
事実を認識し、最初から
薬物など使用しないことです。

なぜ人は薬物を取るのでしょう？

人が薬物を取る理由は、自分の人生を変えたいと思うからです。

若い世代の人たちが薬物を取る理由には、以下のものがあります。

- 周りとうまくやっていきたい。
- 問題から逃避、またはリラックスするため。
- 退屈を紛らわすため。
- 大人になったような気がするから。
- 反抗するため。
- どんなものか試してみたい。

こういった若者は、薬物が問題を解決してくれると思っているのです。しかし、結局のところ薬物は問題にしかなりません。

自分の問題に直面することが困難なこともあるでしょう。しかし、薬物によって解決しようとしている問題よりも、薬物を使用した方が常に悪い結果を招きます。本当の解決策は、事実を認識し、最初から薬物など使用しないことです。



この小冊子を含む薬物防止教育小冊子のシリーズは、これまでに20以上の言語で出版され、世界中で何百万部も配布されてきました。



新しい薬物が次々と世の中に出回っており、その影響に関する新たな情報が知られるようになっています。本シリーズはそうした新しい情報を盛り込んだ最新版です。

これらの小冊子シリーズは、カリフォルニア州ロサンゼルスを拠点とする非営利の公益法人「薬物のない世界のための財団」によって出版されています。

財団は、その国際防止ネットワークを通して各種教育資料や助言を提供したり、調整を行ったりしています。また、青少年や保護者、教育者やボランティア団体、政府機関ばかりではなく、薬物乱用のない人生を送ることに関心のある人なら誰とでも協力しています。

参照文献:

この小冊子をまとめるのに使われた参照文献: jp.DrugFreeWorld.org/refs

写真:2、9ページ:Stockxpert;15ページ: Sweet Faux Pas;24ページ: Wes Tarca

知っておくべき真実

この小冊子を含む薬物防止教育小冊子のシリーズには、マリファナ、アルコール乱用、フェンタニル、危険ドラッグ、エクスタシー、コカイン、クラック・コカイン、覚せい剤、有機溶剤 / 吸入ガス、ヘロイン、LSD、処方薬乱用についての正確な情報がまとめられており、読者が自分の意志で薬物のない人生を送ることができるように役立つ内容になっています。

無料オンライン・コースを行う、または地域の薬物のない世界支部とつながるには、jp.DrugFreeWorld.orgにアクセスしてください

薬物のない世界のための財団

jp.DrugFreeWorld.org • info@drugfreeworld.org

1 (888) 668-6378 • 1 (818) 952-5260

この小冊子をダウンロードするには ここをスキャン

© 2025年 Foundation for a Drug-Free World. 不許複製。Truth About Drugsおよび薬物のない世界のための財団のロゴは Foundation for a Drug-Free Worldが所有しており、使用にあたってはその許可が必要です。#S001562 - Japanese